



魚を食べよう Vol.5



～日本一魚をおいしく食べるまち鳥羽～

教育委員会学校教育課 ☎️ 25 1265

鳥羽が好き!ふるさと給食

学校給食では、鳥羽の食材を知ることでもっと鳥羽を好きになってほしいという願いから、鳥羽市の食材を使った「鳥羽が好きふるさと給食」を2学期と3学期に実施しています。

これまでに「伊勢海老」や「さわら」などを使用してきました。



稚魚の放流の様子

今年は、10月26日に答志産「ひらめのフライ」を味わいました。

当日の食育の授業では、加茂小学校3年生が、ヒラメの生態や離島の小学校で行われている稚魚の放流など、資源を守る取り組みを学びました。



鳥羽の食材を使った給食

鳥羽の新米(今浦産新米)、鳥羽魚のフライ(答志産ひらめ)、あおさ入りたまごスープ(畔蛸産あおさ)、ゆで野菜、牛乳

給食の時間は、市長や教育長と一緒においしくいただきました



このような中で、文部科学省では令和2年度から「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を目指し、地域課題の解決やその暮らしを支える「社会教育士」という制度を推進しています。この社会教育士が生まれた背景には地域のつながりの希薄化、空き店舗が増える商店街、子育てや介護が生む孤立、居場所の無い子ども・若者、国籍の違いや障がいの有無などによる分断などが挙げられています。これらは、他の分野からそれぞれの地域課題に向き合う人材や制度の方向性と同じです。新たな社会教育士という制度を含め、各分野で活動する人や活動が相互を知り、さらにつながっていくけば、鳥羽市の福祉はより豊かになっていくように思います。

今回のトバゴトコラムは、地域課題に取り組む「社会教育士」という制度のお話です。最近では「地域での活躍」をキーワードに、地域おこし協力隊、集落支援員、生活支援コーディネーターなど、さまざまな分野から地域を盛り上げる制度や人材が存在します。ちなみに、私の役割でもある「生活支援コーディネーター」は、主な対象を高齢者とする「介護保険制度」の中から生まれました。活動のキーワードは地域づくりや地域福祉で、まちの福祉体制を整えていく全世代的な活動も期待されています。このため、福祉に触れてもらう一環として、このトバゴトコラムをつづることや依頼があれば学校教育現場での活動なども積極的に引き受けています。

キーワード
#地域課題に向き合う人材
#社会教育士



(文部科学省ホームページ: 社会教育士より引用)

とばびと 活躍プロジェクト

トバゴト

Vol.13



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係
(生活支援コーディネーター 杉浦徹)

☎️ 25 1186